

平成 26 年度病虫害発生予察予報第 11 号(2月)

平成 27 年 2 月 4 日  
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量
抑制・促成キュウリ	べと病 うどんこ病 つる枯病 褐斑病 黄化えそ病 ミナミキイロアザミウマ	平年並 並～ <u>やや多</u> やや少 平年並 少 平年並
促成ナス	灰色かび病 うどんこ病 黒枯病 すすかび病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>やや多</u> <u>多</u> <u>やや多</u> 並～ <u>やや多</u> 少 並～ <u>やや多</u>
促成ピーマン・シシトウ	うどんこ病 斑点病 黒枯病 ミナミキイロアザミウマ ヒラズハナアザミウマ タバココナジラミ	<u>やや多</u> <u>多</u> やや少 少～やや少 平年並 平年並
促成トマト	うどんこ病 葉かび病 すすかび病 タバココナジラミ	<u>多</u> <u>やや多</u> <u>多</u> 少

## I 気象予報(高松地方气象台 平成27年1月29日発表)

<予想される向こう1か月の天候> 1月31日から2月28日

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

週別の気温は、1週目は、低い確率60%です。2週目は、平年並または低い確率ともに40%です。

<向こう1ヶ月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

期間	対象地域	要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
1ヶ月	四国地方	気温	40	30	30
		降水量	40	30	30
		日照時間	30	40	30

<気温経過の各階級の確率(%)>

期間	対象地域	低い	平年並	高い
1週目	四国地方	60		10
2週目		40	40	20
3~4週目		30	30	40

<予報の対象期間>

1ヶ月 : 1月31日(土)~2月28日(土)

1週目 : 1月31日(土)~2月 6日(金)

2週目 : 2月 7日(土)~2月13日(金)

3~4週目: 2月14日(土)~2月27日(金)

## II 病虫害発生予想

### 1. 抑制・促成キュウリの病虫害

#### 1) ベと病

**予 想** 発生時期:平年並 / 発生量:平年並  
**根 拠**

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。いずれの地域でも平年並以下の発生であったが、県中央部では発病程度の高いほ場も見られた。
- (2) 向こう1か月の気象予報では降水量は少なめと予想されていることから、平年並程度の発生になると考えられる。

#### **対 策**

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

#### 2) うどんこ病

**予 想** 発生時期:平年並 / 発生量:平年並~やや多  
**根 拠**

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られ、県中西部ではやや少発生であるが、中央部と西部ではやや多発生となり、一部では発病程度がやや高めの見られた。
- (2) 向こう1か月の気象予報では気温が低めと予想されていることから、加温機の稼働時間が長くなり、先月と同程度からやや多発傾向で推移すると考えられる。

## 対 策

- (1) 他の多くの糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。ガッテン乳剤、プロパティフロアブルを使用した場合、菌叢の褐変、消失は見られないので、防除効果は上位葉への進展など、未発生葉への進展状況で判断する。

### 3) つる枯病

**予 想** 発生時期: 平年並 / 発生量: やや少  
**根 拠**

- (1) 巡回調査では県中西部、西部で少発生、中央部は平年並で、全般的に発生はやや少なめの発生であった。
- (2) 向こう1か月の気象予報は発生が助長される内容ではなく、現在の発生も平年と比べて少なめであるため、今後もやや少発生傾向で推移するものと思われる。

## 対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

### 4) 褐斑病

**予 想** 発生時期: 平年並 / 発生量: 平年並  
**根 拠**

- (1) 巡回調査では県中西部、西部で発生が見られ、中西部ではやや多めの発生面積となったものの、発生程度は高くなかった。
- (2) 向こう1か月の気象予報では気温が低めと予想されており、本病の発病を助長するものではないことから、現在の発生状態が続くと思われる。

## 対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

### 5) 黄化えそ病

**予 想** 発生時期: 平年並 / 発生量: 少  
**根 拠**

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られたが、平年に比べ少なめの発生となっている。
- (2) 本病の媒介虫であるミナミキイロアザミウマは、平年並の発生となっている。

## 対 策

- (1) ミナミキイロアザミウマの防除を低密度時に徹底する。また、本病の発生株は早期に除去し、埋没するなどの処分を行う。

### 6) ミナミキイロアザミウマ

**予 想** 発生時期: 平年並 / 発生量: 平年並  
**根 拠**

- (1) 巡回調査では県中央部、西部で平年並の発生、中西部では少発生であった。
- (2) 気象予報では低温傾向であるが、陽射しが強くなるにつれ、増殖スピードが速くなるので注意が必要である。

## 対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、低密度時(発生初期は生長点付近に多い)の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

## 2. 促成ナスの病害虫

### 1) 灰色かび病

**予想** 発生時期: 平年並 / 発生量: やや多  
**根拠**

- (1) 巡回調査では西部で少発生、中央部は平年並であったが、主産地の県東部では多発生であった。しかし、発生程度は高くなかった。
- (2) 向こう1か月の気象予報では気温が低く、加温機の稼働時間が長くなるため、発生が抑制されると考えられるが、現在の発生が多いことから、やや多発傾向で推移すると考えられる。

#### 対策

- (1) 20℃内外の温度と多湿条件が発病に適し、急激に蔓延するので、予防及び発生初期の薬剤散布を徹底する。ただし、同一薬剤や同じタイプの薬剤の連用は耐性菌発現の恐れがあるので、薬剤の選定には十分留意する。
- (2) 薬剤散布のみならず、曇雨天時の加温や送風等耕種的な対策も取り入れ、ハウス内湿度の低下に努める。また、被害果実や花卉の早期除去により、菌密度を下げることに努める。

### 2) うどんこ病

**予想** 発生時期: 平年並 / 発生量: 多  
**根拠**

- (1) 巡回調査では西部では少発生であったものの、東部と中央部では多発生となり、中央部では発生程度も高くなった。
- (2) 向こう1か月の気象予報では気温が低く、加温機の稼働時間が長くなるため、病勢の進展が助長されると考えられる。

#### 対策

- (1) 他の多くの糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

### 3) 黒枯病

**予想** 発生時期: 平年並 / 発生量: やや多  
**根拠**

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。県東部ではやや多め、県中央部では多発生、県西部では平年並の発生で、いずれの地域でも発病程度は平年より高かった。
- (2) 向こう1か月の気象予報は発生が助長される内容ではないが、現在の発生程度が高いことから、多発傾向が続くと考えられる。

#### 対策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底する。
- (2) 罹病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

### 4) すすかび病

**予想** 発生時期: 平年並 / 発生量: 並～やや多  
**根拠**

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。県東部では平年並であったが、県中央部、西部ではやや多めの発生であり、発病程度は高かった。
- (2) 向こう1か月の気象予報は発生が助長される内容ではないが、現在の発生程度が高いことから、多発傾向が続くと考えられる。

#### 対策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底する。
- (2) 罹病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

### 5) ミナミキイロアザミウマ

**予想** 発生時期: 平年並 / 発生量: 少

## 根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で見られたが、発生面積は少なく、発生程度の高いほ場は見られなかった。
- (2) 気温低下にともない増殖が緩慢になるため、大幅な密度増加はなく、今後も少発生が続くと考えられる。

## 対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。

### 6) タバココナジラミ

予 想 発生時期: 平年並 / 発生量: 並～やや多

## 根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。西部は少発生、東部は平年並、中央部ではやや多発生であったが、発生程度が高いほ場はなく、すす病の発生も見られなかった。
- (2) 低温により増殖が緩慢な時期であるが、現状の発生傾向が続くと考えられる。

## 対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。

## 3. 促成ピーマン・シントウの病害虫

### 1) うどんこ病

予 想 発生時期: 平年並 / 発生量: やや多

## 根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県東部、中央部は平年並、中西部はやや多発生であったが、発病程度の高いほ場は見られなかった。
- (2) 向こう1か月の気象予報では気温が低く、加温機の稼働時間が長くなるため、病勢の進展が助長されると考えられる。

## 対 策

- (1) 他の多くの糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

### 2) 斑点病

予 想 発生時期: 平年並 / 発生量: 多

## 根 拠

- (1) 巡回調査では県東部では平年並、西部はやや多、中央部は多発生で、各地区とも発病程度は高かった。
- (2) 向こう1か月の気象予報は発生が助長される内容ではないが、現在の発生程度が高いことから、多発傾向が続くと考えられる。

## 対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

### 3) 黒枯病

予 想 発生時期: 平年並 / 発生量: やや少

## 根 拠

- (1) 巡回調査では各地区やや少～少発生であった。
- (2) 向こう1か月の気象予報は特に発生が助長される内容ではないため、発生が増加することはないと考えられる。

## 対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

## 4) アブラムシ類

**予 想** 発生時期: 平年並 / 発生量: 平年並  
**根 拠**

- (1) 巡回調査では県東部は少発生、中央部と中西部では平年並みの発生で、特に程度の高いほ場は見られなかった。
- (2) 気温の低下にともない増殖が緩慢になるため同程度の発生で推移すると考えられる。

## 対 策

- (1) 施設ピーマン類に発生する主なアブラムシはモモアカアブラムシ、ワタアブラムシである。モモアカアブラムシは生長点付近に発生するが、ワタアブラムシは下位葉で発生するので注意する。
- (2) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。

## 6) ミナミキイロアザミウマ

**予 想** 発生時期: 平年並 / 発生量: 少～やや少  
**根 拠**

- (1) 巡回調査では県下全域で見られたが、各地区とも平年並以下の発生であった。
- (2) 気温の上昇期までは少発生傾向が続くと考えられるが、天敵の数が極端に少ない場合には、2月上旬頃からの急激な増加に注意が必要である。

## 対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。

## 7) ヒラズハナアザミウマ

**予 想** 発生時期: 平年並 / 発生量: 平年並  
**根 拠**

- (1) 巡回調査では県下全域で見られた。県東部と中央部では寄生密度の高いほ場も見られたが実被害は発生していない。
- (2) 低温期にあたり増殖が緩慢であるため、現状の発生程度で推移すると考えられる。

## 対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。

## 8) タバココナジラミ

**予 想** 発生時期: 平年並 / 発生量: 平年並  
**根 拠**

- (1) 巡回調査では中西部は少発生であったが、東部と中央部では平年並の発生であった。
- (2) 気温の低下にともない増殖が緩慢になるため同程度の発生で推移すると考えられる。

## 対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。
- (2) 本虫の天敵として導入されているスワルスキーカブリダニは乾燥に弱く、ほ場内で乾燥しやすい場所では多発生となる可能性があるので注意する。

## 4. 促成トマトの病害虫

### 1) うどんこ病

**予 想** 発生時期: 平年並 / 発生量: 多

## 根 拠

- (1) 巡回調査では一部のほ場で発生が見られた。平年より多めの発生であったが、下葉中心の発生であった。
- (2) 向こう1か月の気象予報では気温が低く、加温機の稼働時間が長くなるため、病勢の進展が助長されると考えられる。

## 対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。また、本病は葉かび病やすすかび病に初期病斑は酷似するので、防除薬剤の選定に注意する。

### 2) 葉かび病

予 想 発生時期:平年並 / 発生量:やや多

## 根 拠

- (1) 巡回調査では葉かび抵抗性でない品種を導入しているほ場で一部発生が見られた。
- (2) 向こう1か月の気象予報は発生が助長される内容ではないが、蔓延しやすい病害のため、特に抵抗性品種を導入していないほ場では注意が必要である。

## 対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

### 3) すすかび病

予 想 発生時期:平年並 / 発生量:多

## 根 拠

- (1) 巡回調査では複数のほ場で発生が見られ、平年より多めの発生であったが、下葉中心の発生であった。
- (2) 向こう1か月の気象予報からは急激な増加は見られないと思われるが、現在の多発傾向が続くと考えられる。

## 対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

### 4) タバココナジラミ

予 想 発生時期:平年並 / 発生量:少

## 根 拠

- (1) 巡回調査では発生は見られなかった。
- (2) 気温の低下にともない増殖が緩慢になるため、少発生が続くと考えられる。

## 対 策

- (1) 本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。また、ごく低密度でも黄化葉巻病を媒介するので注意する。

農作物の病虫害防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

#### 病虫害防除所ホームページ (こうち農業ネット)

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

- ①病虫害発生予察月報、病虫害発生予察予報
- ②病虫害発生予察注意報、病虫害発生予察警報、病虫害発生予察特殊報
- ③病虫害発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病虫害 etc.

#### こうち農業ネットサービス※

- ・携帯電話を使った病虫害関連情報 (どなたでも利用可能です)

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/i/info> (Iモード)

トップメニュー→地域情報→タウンガイド・行政→高知県庁メニュー→農業情報 (ezweb)

四国メニュー→タウン情報・行政→高知県庁メニュー→農業情報 (ヤフー)

- ①病虫害発生予察情報 (概要)

※ 閲覧は無料ですが通信料は別途必要となります